

新潟市農業構想の達成状況の評価

サブテーマ・施策	成果・評価
基本方針 1. 競争力のある食と花の確立【生産・販売に関する方針】	
サブテーマ(1) 売れる米づくり	
施策 1. 販売力のある主食用米づくり【農政】	・人口減少社会の進展など米を取り巻く厳しい状況を踏まえ、加工用米など非主食用米の地域内での需要を促進したほか、GAPの推進など農産物の付加価値向上を進めることで、主食用米の生産強化に大きな効果があった。
施策 2. 水田フル活用の推進【農政】【農活】	・主食用米だけでなく非主食用米や輸出用米のほか、麦・大豆の生産の維持・拡大に取り組むとともに、新形質米の研究も行うなど、生産拡大を支援し、本市の水田の維持・活用に大きく貢献した。 ・加工用途に応じた、最適な水稻の品種を使い分けることにより、収量増や加工適性に貢献するだけでなく作期や調整作業の重複回避に効果があった。
施策 3. 低コストな米づくり【農政】	・スマート農機の導入を推進し、生産性の向上や品質向上に向けた取組みを進めた。 ・農地中間管理機構を通じた担い手の経営規模拡大・集約化を推進し、作業効率化による低コストな米づくりに大きな効果があった。
サブテーマ(2) 消費者の期待に応える食と花の確立	
施策 4. 品質の確保された農畜産物の生産【農政】【農活】	・農産物の安心・安全に向け、GAP指導員資格の取得を推進することで品質保持や付加価値向上を進めるとともに、畜産業の施設修繕や機械導入を支援し周辺環境に配慮した生産を推進することで、農畜産物の生産強化を進めた。 ・土壌分析を行うことで、生産者が適正施肥の意識を持つことに貢献できた。
施策 5. 安定した生産量の確保【農政】【農活】【食花】	・農業経営の規模拡大や品質向上に向けた農業者の設備投資や取組みを支援することで、農産物の生産量確保に大きな効果があった。 ・安定的な作型の提案を行うことで、生産者の安定出荷につなげることができた。 ・アグリパークの機能を活用した農作業基礎訓練の結果、障がい者の農業へのきっかけづくり、新たな就労分野の開拓につながった。 ・園芸作物の労働力確保に向け、ITベンチャーと新潟雇用労働センターと連携協定を締結し、マッチングアプリ「1日農業バイト・デイワーク」を導入し運用を開始した。
施策 6. 新たな品目・品種への取り組み【農政】【農活】	・新たな園芸産地の形成と産地の大規模化に向けて、農業者の機械・施設整備を支援することで、複合経営や園芸の生産拡大に大きな効果があった。 ・農業普及指導センターと連携し、園芸作物の現状や課題を把握し実証試験を行っている。研究成果はSNSを活用し、広く周知することができた。
サブテーマ(3) 食料基地からの発信	
施策 7. 地産地消の推進【食花】	・直売所の整備により、市内産農産物の消費拡大が図られた。 ・地産地消推進の店認定制度を活用し、市HPでの店舗紹介や店舗独自のPRに取り組むことで、市内産農水産物の需要喚起や消費拡大を図ることができた。 ・学校給食では、市内産のコシヒカリを一定期間提供した後、現在は通年で市内産米による完全米飯給食を実施している。また、米以外についてもこども食育新聞の発行や、地産地消をテーマとした食育推進フォーラムを開催することで、関係者間で地産地消推進に向けた課題を共有することができた。
施策 8. ブランド化の推進【食花】【農活】	・市内産農水産物のブランド化に向けて「食と花の銘産品事業」を活用し銘産品の育成・指定を行うとともに、指定を受けた品目については、JA全農にいがたや市内JAと連携しPRイベントを実施するなど、銘産品の認知度向上や消費拡大を図ることができた。また、SNSを活用して旬の銘産品の情報を発信することができた。 ・「いくとびあ食花」や「アグリパーク」において、地場農産物の認知度向上や消費拡大、ブランドイメージの向上のため、本市の食と花や農業の魅力発信や体験の場を提供した。新型コロナウイルスの影響はあるものの、直売所の売上げが好調であったり、農業体験参加が増加傾向であるなど、食と花のPRに寄与している。 ・アグリパーク食品加工支援センターにおいては、新製品の試作から商品化までを支援することにより、農産物の高付加価値化を推進した。 ・農産物の機能性について、大学等と連携し研究を行い、イチゴの栄養機能食品、柿葉の健幸づくり応援食品に結び付けた。
施策 9. 国内の販路拡大・輸出の促進【食花】【農政】	・市内農業団体等とR3年4月に「新潟市園芸作物販売戦略会議」を設立し、地域一体となって園芸作物の販売促進・販路開拓に取り組んだ。戦略会議が主体となり、首都圏の市場関係者(卸・仲卸)に向けたすいかトップセールスや、新幹線物流を活用した枝豆のプロモーションに取り組むことで、販売力の強化を図ることができた。 ・食の拠点性向上に向けて、「食の国際見本市フードメッセ in にいがた」を開催し、食に関する新たなビジネスチャンスを生み出したほか、米をはじめとした農産物の輸出に取り組むことで新規販路を開拓することができた。 ・国内の販路拡大に向け、GAP指導員資格の取得を推進することで品質保持や付加価値向上を進めるとともに、輸出用米の生産拡大を支援するなど、国内外に向けた販路の拡大に大きな効果があった。

サブテーマ・施策	成果・評価
基本方針2. 消費者の期待に応える食と花の確立【担い手に関する方針】	
施策10. 新規就農者・農業生産法人等の確保・育成 【農政】 【食花】	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の確保・育成について、研修にかかる経費を補助するなどにより目標を大きく上回る効果があった。 ・アグリパークの機能を活用した農作業基礎訓練の結果、障がい者の農業へのきっかけづくり、新たな就労分野の開拓につながった。
施策11. 農業経営の確立 【農政】 【農活】 【食花】	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者への農地集積は、きっかけとなる機構集積協力金事業の要件が厳しいことや、機運のあった地区での事業活用が一巡したこと、集積率が伸びず、目標を下回っている。 ・人・農地プランに関する地域農業の話し合いによって、農家の連携強化に大きな効果があったが、先導役となるリーダーの不在や話し合いに参加しない土地持ち非農家の増などにより話し合いがスムーズに進まない地域もあった。 ・6次産業化や農商工連携に関する相談、セミナー、補助事業を通じて、新事業展開への支援ができた。 ・アグリパーク食品加工支援センターにおいて、新製品の試作から商品化までを支援することにより、農業者の6次産業化を推進した。
施策12. 農家の連携の強化 【農政】 【農村水】	<ul style="list-style-type: none"> ・人・農地プランに関する地域農業の話し合いによって、農家の連携強化に大きな効果があったが、先導役となるリーダーの不在や話し合いに参加しない土地持ち非農家の増などにより話し合いがスムーズに進まない地域もあった。 ・多面的機能支払い交付金事業は農業用排水路や農道等の地域資源の保全管理に大きな効果があった。
施策13. 女性農業者への支援 【農政】	<ul style="list-style-type: none"> ・女性農業者を対象とした学習・研修の場への参加促進などにより女性農業者のモチベーションアップや地域の活性化に効果があった。
基本方針3. 力強い農業生産基盤等の整備・保全【農業生産基盤に関する方針】	
サブテーマ(1) 優良農地の確保	
施策14. 農地の保全・活用 【農政】 【農村水】	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域整備計画は、将来にわたり保全・活用すべき優良農地を有効に活用することに大きな効果があった。 ・地域における話し合いを基本として作成した「人・農地プラン」を基に、農業経営基盤強化促進事業や農地中間管理事業を活用し、担い手への農地集積・集約化を進め、農地の保全・活用を図ることができた。
施策15. 優良農地の整備促進 【農政】 【農村水】	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域整備計画は、将来にわたり保全・活用すべき優良農地を有効に活用することに大きな効果があった。 ・ほ場整備の推進により、農業の競争力強化、生産性の向上に大きな効果があった。
サブテーマ(2) 農業水利施設の整備・保全管理	
施策16. 施設老朽化に対する効率的な保全対策 【農村水】	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産基盤の保全に大きな効果があり、農村地域の防災・減災に貢献した。
施策17. 低平地を支える農業農村整備の推進 【農村水】	<ul style="list-style-type: none"> ・農業水利施設の整備・長寿命化に取り組んだことで、農業の持続的な発展に大きな効果があった。
基本方針4. 魅力ある田園環境の創出【農業と環境の共生に関する方針】	
サブテーマ(1) 環境にやさしい農業の推進	
施策18. 環境保全型農業の推進 【農政】	<ul style="list-style-type: none"> ・糞肥や堆肥など、未利用資源の活用に向けた取り組みや設備投資を支援するなど、農業や化学合成肥料の使用を低減した環境への負担の少ない農業を推進した。
施策19. 環境に配慮した整備の推進 【農村水】	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払交付金事業によって農村環境の保全に大きな効果があった。
施策20. 資源循環型社会の形成 【農政】	<ul style="list-style-type: none"> ・糞肥や堆肥など、未利用資源の活用に向けた取り組みや設備投資を支援するなど、農業や化学合成肥料の使用を低減した環境への負担の少ない農業を推進した。
サブテーマ(2) 多面的機能のさらなる発揮	
施策21. 防災機能の向上【農村水】	<ul style="list-style-type: none"> ・農村地域の防災・減災に貢献している。
施策22. 魅力ある田園集落づくりの推進 【農村水】 【食花】	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払交付金事業や農村の景観・水辺環境保全事業は、自然環境の保全、良好な景観の形成に大きな効果があった。 ・アグリパークにおいては、小中学生向けの本市独自の農業体験学習プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」や一般向け農業体験の実施により、地域の農業に対する理解を深め、郷土愛を育む場を提供している。
基本方針5. 食と花の理解を深める農のある暮らしづくり【多様な体験と交流に関する方針】	
施策23. 食育・花育の推進 【食花】	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設の食育・花育センターにおける季節の料理教室、園芸講座、各種体験プログラムの実施により、食育や花育を実践するきっかけづくりに寄与した。 ・新潟市食育推進計画に基づき、飲食店や小売店、大学生等と連携した事業を展開することで、食への課題が多い若い世代への啓発につながった。また、新潟市花育推進計画に基づき、いくとびあ食花や花育マスターと協働しながら新たな花イベントなどを実施し、今後の花育活動の活性化につながる取り組みを進めた。
施策24. 農村・都市交流の推進 【食花】	<ul style="list-style-type: none"> ・農業サポーターの活動実績は向上していないものの、サポーター登録数は増加している。いくとびあ食花やアグリパークの活用等を通じ、交流の機会が増加した。
施策25. 教育ファームの推進 【食花】	<ul style="list-style-type: none"> ・本市独自の農業体験学習プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」による、農業と教育が融合した取り組みの成果が出ており、H28年度には第四回プラチナ大賞で優秀賞を受賞した。 ・新たな成果指標として、「アグリ・スタディ・プログラム」を実施した子どもたちへのアンケートの結果、肯定的評価（新潟市の農業は自慢になると回答した）は94%と高い。